

やってみようぜ、ディープラーニングのプログラミング

9月17日 更に改訂版 7月22日 改訂版 2017年5月28日

名古屋校 2011期 越智 由浩

自己紹介



越智 由浩(おちよしひろ) 愛媛生まれの43歳。祖父母・両親・姉 ほぼ皆 美容師 鎌倉/東京育ち、名古屋在住、5人家族



1998年~日本アイ・ビー・エム2012年~ネットアップ 名古屋支店長2016年~ 〃 トヨタ担当 グローバル・マネージャ



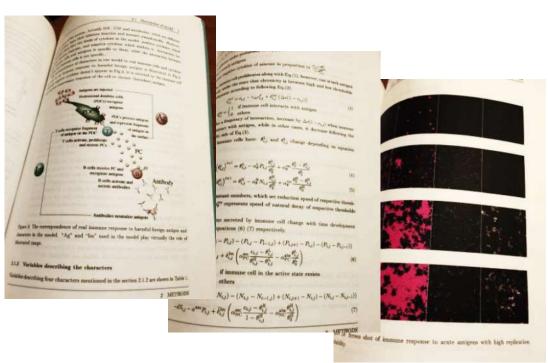
2010年7月から半年間は単科、2011年4月から大学院へ2014年4月、卒業

私とプログラミング

小学生の頃~

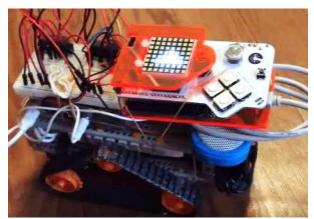


学生の時 カオス・複雑系 免疫系のコンピューター・シミュレーション



最近 オタクっぽい趣味の再燃





今日にいたる経緯 ~名古屋校 プログラミング勉強会 クラブ活動~

メモ:リンクあり



プログラミング勉強会主催











ここから本題

今日の立ち位置~人工知能を学ぶ中で

社会・ビジネス視点

ディープラーニングで何が できるのか、世の中がどう 変わるのか -----



コトバノチガイ

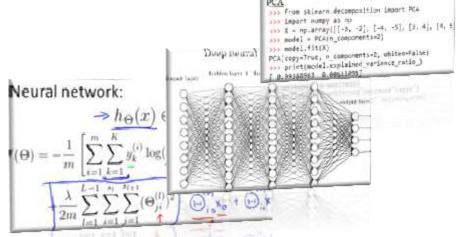
プログラムによる実装

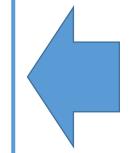
>>> >>> soodel.predict[[[1, 2], [-1, -1]])

array([8, 8, 1, 1]]

)) model - Efferms(n_clusters=2, random_state=0).fit

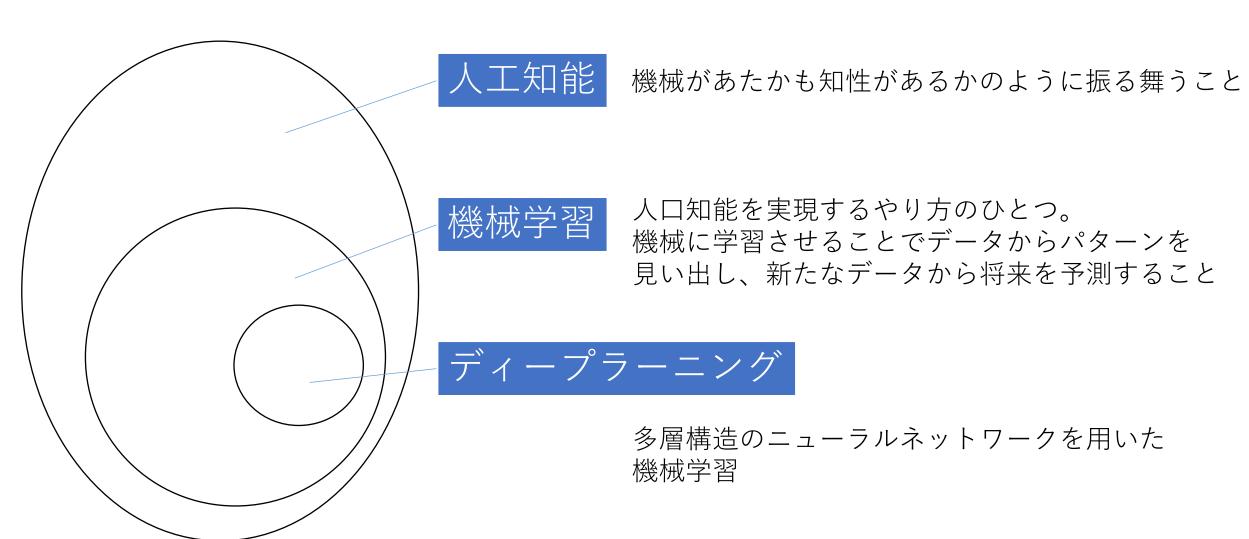
サイエンス・ テクノロジー視点 ディープラーニングっ てそもそも中身は何を やっているのか





今日はこちら 側の基礎的な ところ

まず、言葉の整理

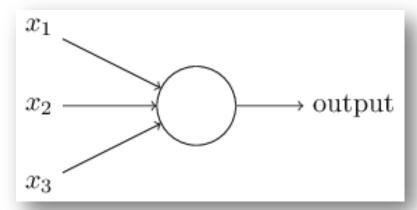


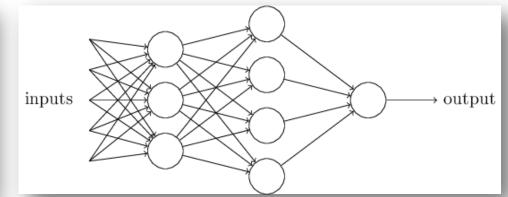
ニューラルネットワークモデル

実物
入力1
神経細胞 (ニューロン)
み力3
シナプス結合

抽象的に表現

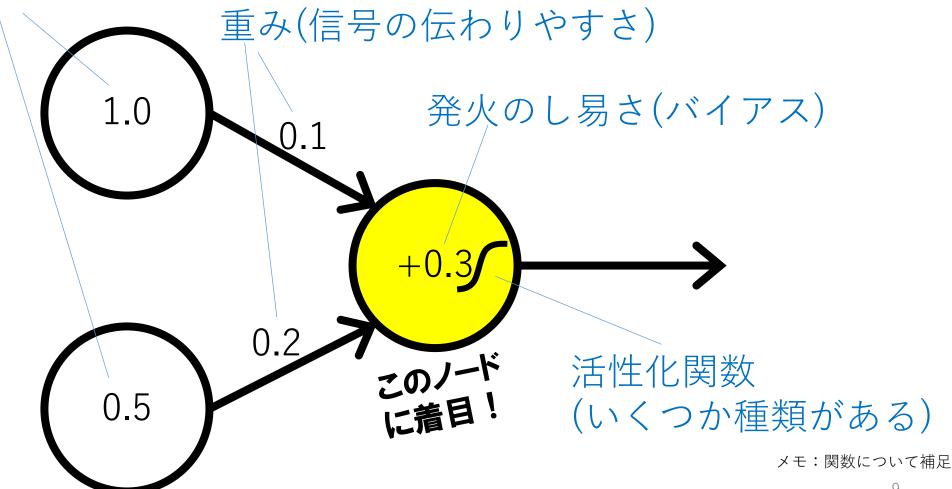
_{モデル} 計算できる"模型"





ニューラルネットワークモデルの計算 **ルール**

入力元の信号の強さ

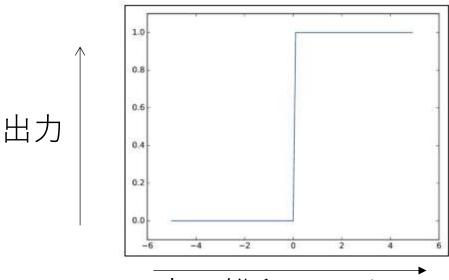


活性化関数

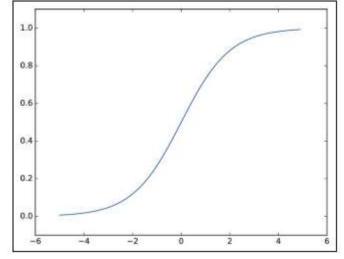
ステップ関数

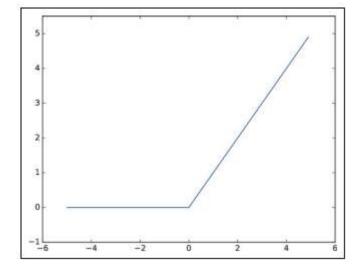
シグモイド関数

ReLU関数 (Rectified Linear Unit)



入力の総和+バイアス



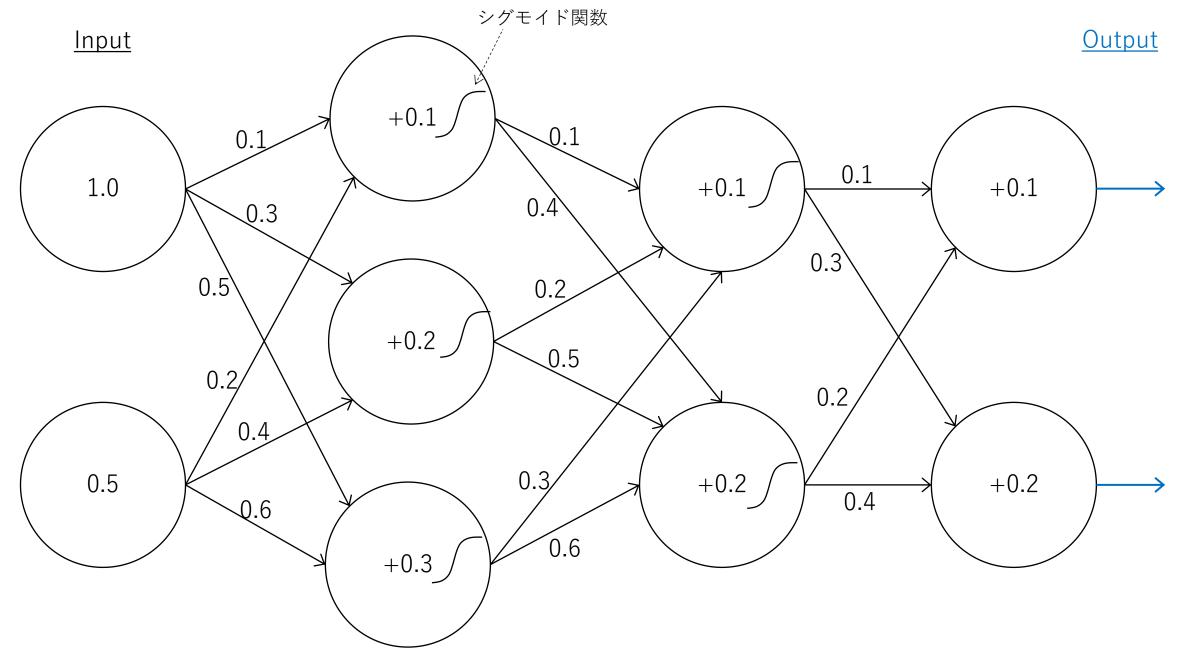


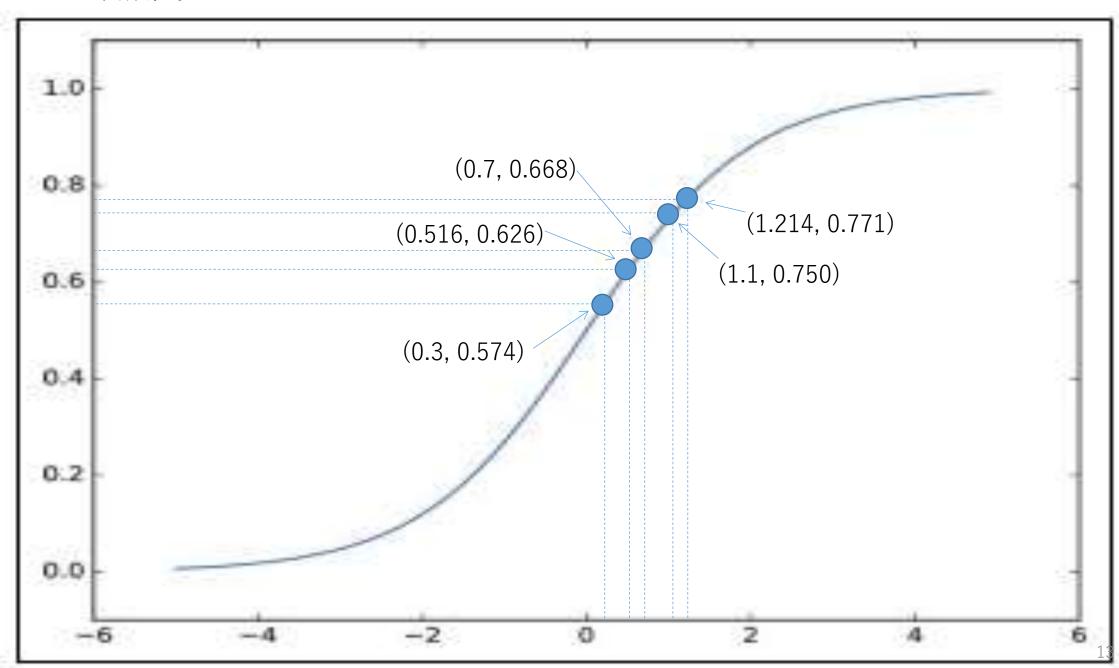
$$h(x) = \begin{cases} 0 & (x \le 0) \\ 1 & (x > 0) \end{cases}$$

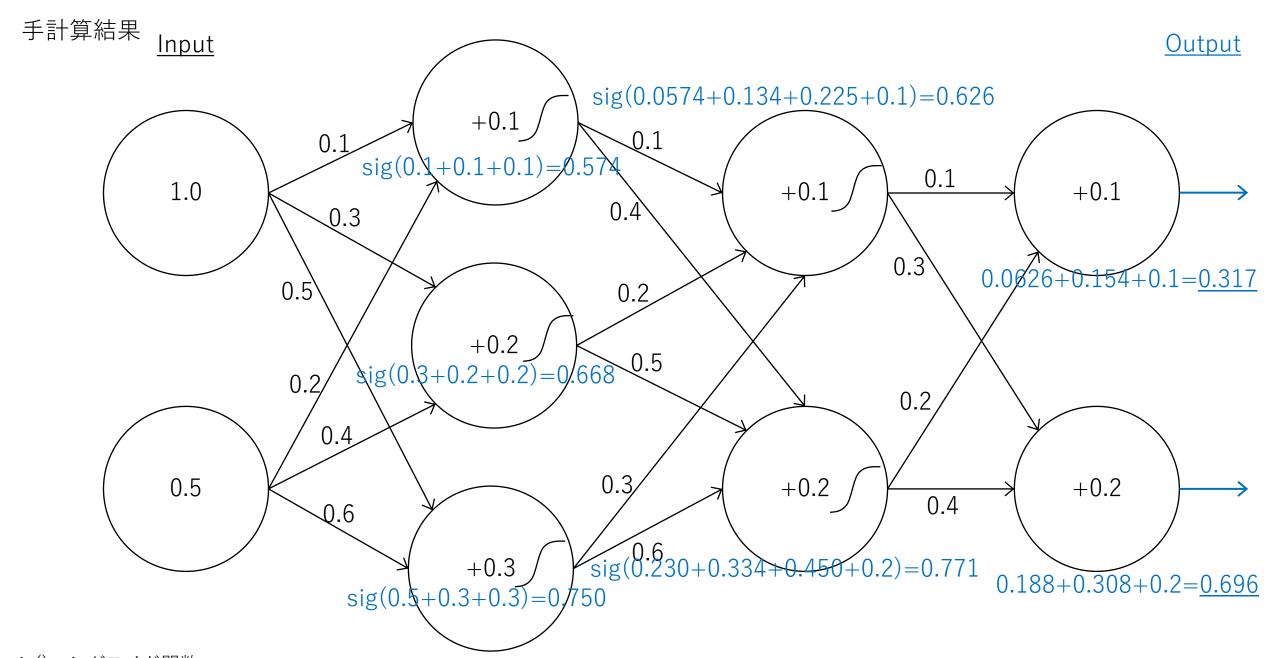
$$h(x) = \frac{1}{1 + \exp(-x)}$$

$$h(x) = \begin{cases} x & (x > 0) \\ 0 & (x \le 0) \end{cases}$$

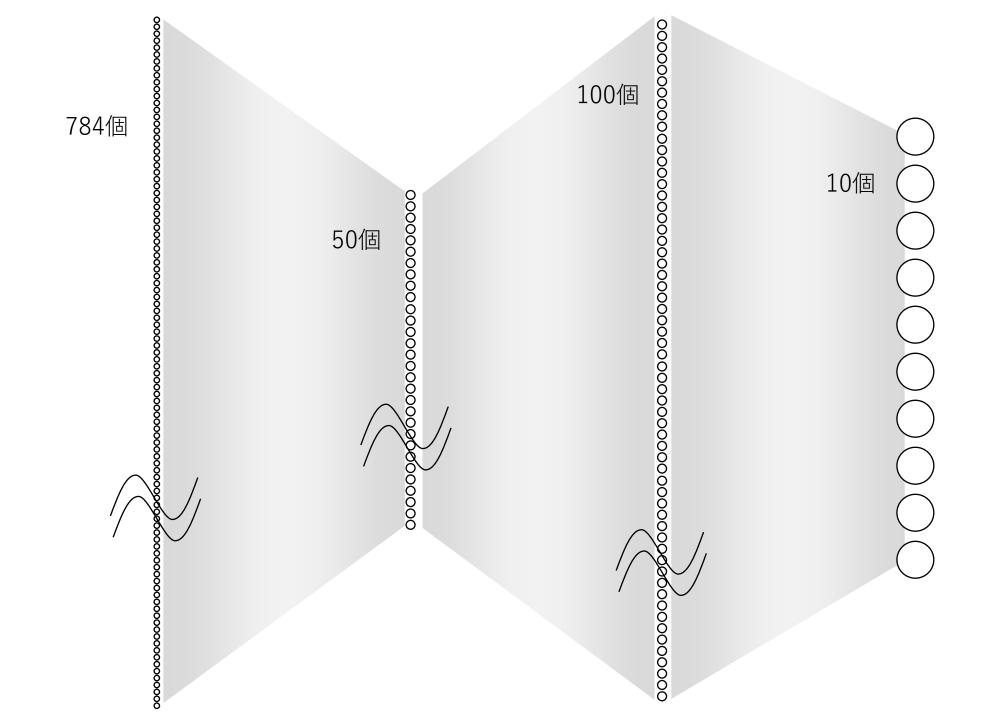
手触り感持って"模型"と慣れ親しむために手で計算してみる

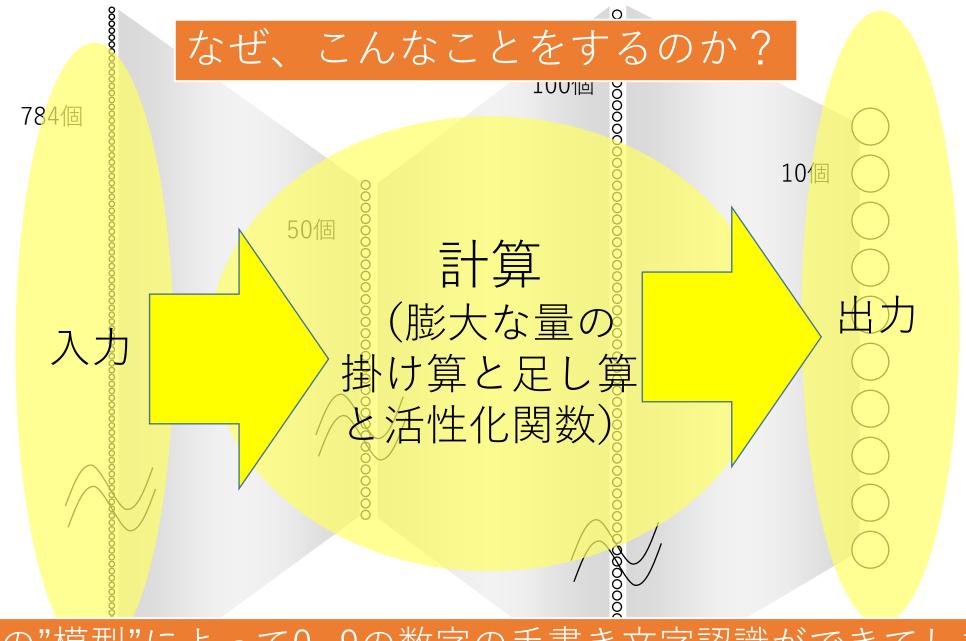






sig():シグモイド関数





この"模型"によって0~9の数字の手書き文字認識ができてしまう!

8

手計算じやムリ!

計算

(膨大な量の 掛け算と足し算 と活性化関数) 単調な計算の繰り返しは コンピューターの得意技。 プログラムを作って計算 させちゃえばいい!



ふたつの武器を手に入れよう

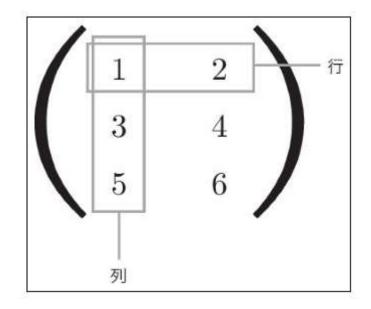
・数学の道具 - 「行列」と「行列の内積」

•プログラミング – Python(なぜPython かは後ほど補足)

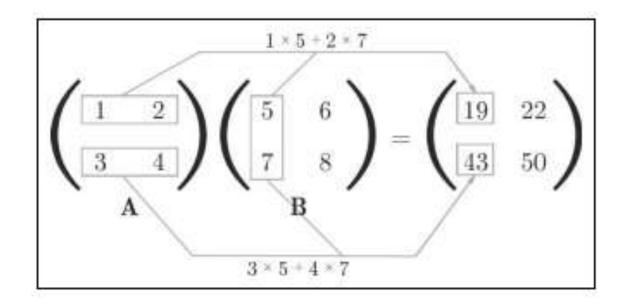
数学の便利な道具 - 行列と行列の内積

なぜ便利かは後ほどわかる

3 x 2の行列の例



行列の内積の例



行列計算に慣れ親しむ

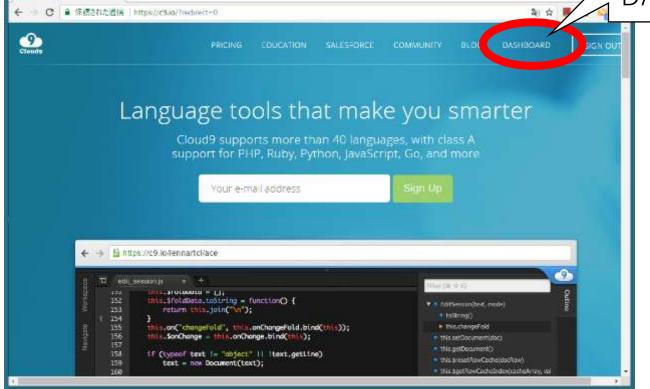
$$\begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 5 & 7 \\ 9 & 11 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 11 \\ 22 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 77 \\ 209 \\ 341 \end{pmatrix}$$

$$(11\ 22) \cdot \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 5 & 7 \\ 9 & 11 \end{pmatrix} = \boxed{?}$$



Cloud9によるPython開発環境(1)

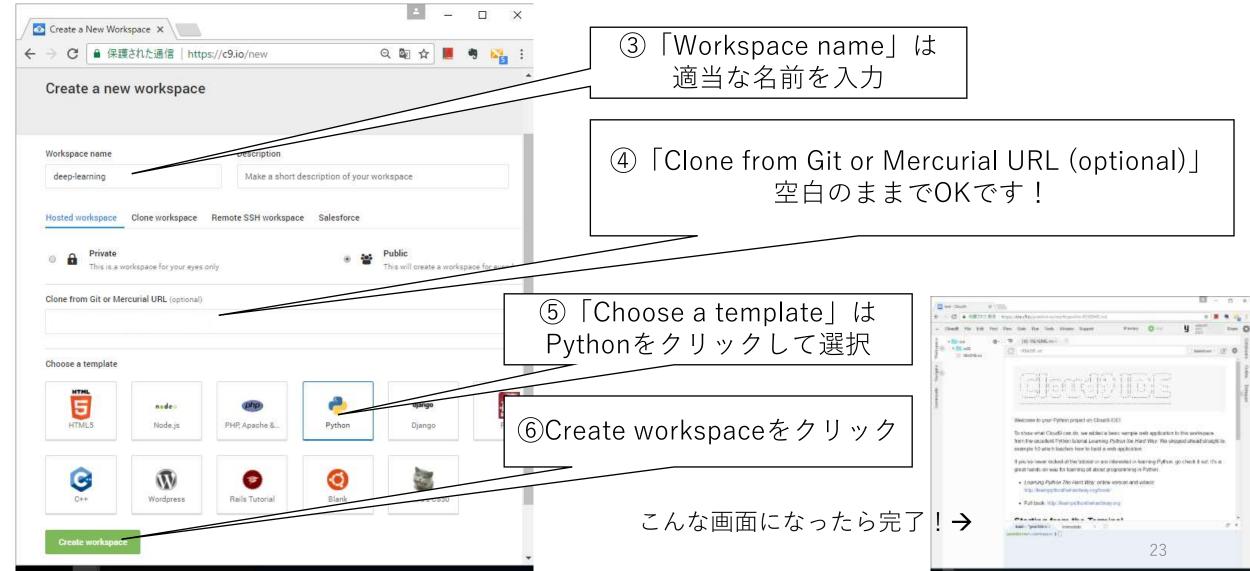
①Cloud9ログイン後、 トップページから DASHBOARDをクリック



Clouds - Your developm X

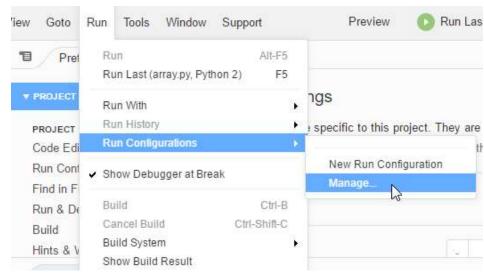
②「+」をクリックする The State of the Control of the Cont ← C • GIBBLE AG https://dia/viol @ (+) (+) y Workspaces **Makipires Waterd With Me** test-deep-learning-from... O Claimed from smilly japan rating learning from Ac-Add a description bare.

Cloud9によるPython開発環境(2)



Cloud9によるPython開発環境(3)

- ⑦Pythonのバージョンを3に変更
- Run -> Run Configurations -> Manage
- Preference
 - Python Support : Python Version:
 - Python 3へ変更
- Preferenceタブを閉じる





Cloud9によるPython開発環境(4)

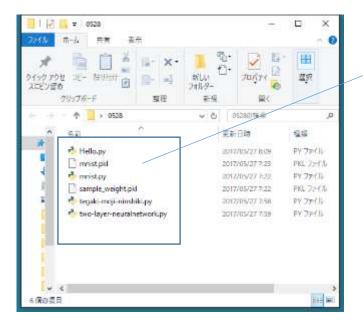
- ®Githubから必要なファイルをダウンロード
- 下記URLに行く
 https://github.com/yoshihiroo/programming-workshop/tree/master/deep-learning
- 0528.zip をダウンロードし、解凍すると下記6つのファイルができる
 - 👶 Hello.py
 - mnist.pkl
 - 👶 mnist.py
 - sample_weight.pkl
 - 👶 tegaki-moji-ninshiki.py
 - two-layer-neuralnetwork.py

Cloud9によるPython開発環境(5)

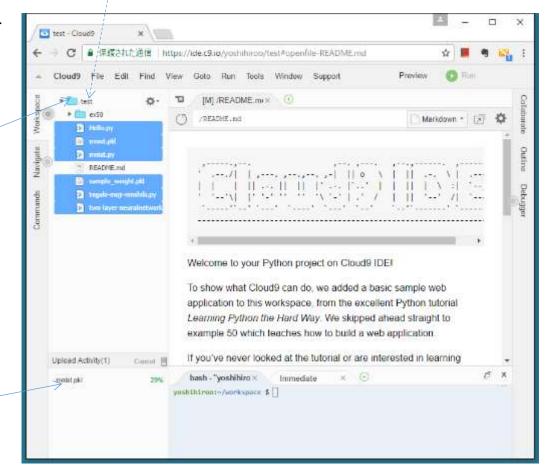
• ⑨Cloud9にファイルをアップロード

解凍した6つのファイルをドラッグ& ドロップでCloud9上のフォルダにコ

ピー

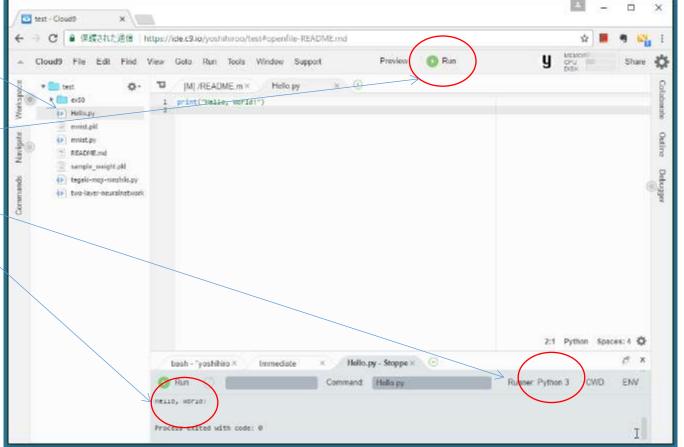


mnist.pklは重たいファイルなので時間かかります。 ここに進行状況が表示されます。 ワークスペースの作成時の名前がディレクトリ名になっています この画面の場合「test」。



Cloud9によるPython開発環境(6)

- ⑩サンプルファイルの実行
 - Hello.pyをダブルクリック
 - ソースコードが表示される
 - 右上のRUNをクリック
 - 「Python 3」を確認
 - Hello, World!の表示を確認





蛇足

いろいろな呼び方

 • 行列
 =
 マトリックス
 =
 二次元配列
 =
 二次元行列

 数学っぽい
 英語
 プログラムのときよく使う
 次元を明示的に

ベクトル = 配列 = リスト
 数学っぽい プログラム・・ 特にPython

表記方法

- 行列は大文字 A, B, C...
- ベクトルは小文字 a, b, c..

Python上で行列計算を行う

```
import numpy as np
a = np.array([1, 2, 3])
print(a)
b = a + 3
print(b)
c = b * 10
print(c)
D = np.array([[1,2,4], [3,5,7]])
print(D)
E = np.array([[3,4], [5,6], [5,4]])
print(E)
```

```
import numpy as np
      a = np.array([1, 2, 3])
      print(a)
      b = a + 3
      print(b)
      c = b * 10
      print(c)
      D = np.array([[1,2,4], [3,5,7]])
      print(D)
      E = np.array([[3,4], [5,6], [5,4]])
      print(E)
   bash - "yoshihiro ×
                          Immediate (Java ×
    Run
four code is running at https://test-deep-ie
Important: use os.getenv(PORT, 8080) as the
[1 2 3]
[4 5 6]
[40 50 60]
[[1 2 4]
13 5 711
[[3 4]
15 61
[5 4]]
Process exited with code: 0
```

先ほどの例をNumPyを使って計算してみましょう

$$\begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 5 & 7 \\ 9 & 11 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 11 \\ 22 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 77 \\ 209 \\ 341 \end{pmatrix}$$

先ほどの例をNumPyを使って計算してみましょう

```
import numpy as np
X = np.array([[1,3], [5,7], [9,11]])
y = np.array([11,22])
z = np.dot(X, y) ← np.dotは内積を計算するコマンド
print(z)
```

先ほどの例をNumPyを使って計算してみましょう

$$(1122) \cdot \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 5 & 7 \\ 9 & 11 \end{pmatrix} = \boxed{?}$$

そのほかのNumPyのコマンドをいくつか 試してみましょう 青文字箇所を追加

```
import numpy as np
X = np.array([[1,3], [5,3], [9,11]])
y = np.array([11, 22])
z = np.dot(X, y)
print(z)
                    X[3]と見ようとしたらどうなるでしょうか?
print(X[0])
                    同じく、X[0][3]は?
print(X[0][1])
                    Xのところをyやzに変えたらどうなるでしょうか?
print(X.shape)
```

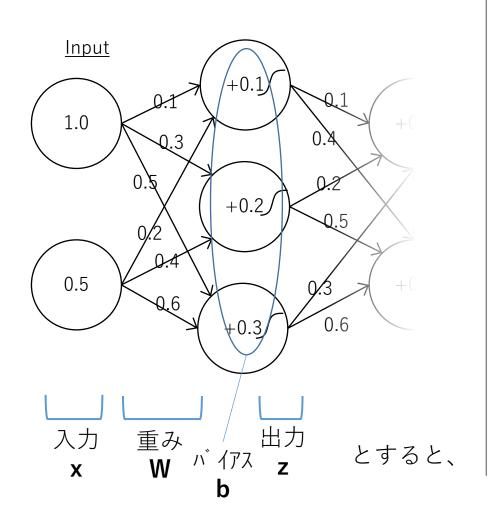
なぜ、行列(内積)なんていう道具を使うのか?

それは、行列を使うとニューラルネットワークをシンプルに記述できるから。

ニューラルネットワークを行列計算で表

現してみる

先ほどの模型の前半部分



$$z = sig(W \cdot x + b)$$

$$= sig(\begin{pmatrix} 0.1 & 0.2 \\ 0.3 & 0.4 \\ 0.5 & 0.6 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 1.0 \\ 0.5 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0.1 \\ 0.2 \\ 0.3 \end{pmatrix})$$

$$= sig(\begin{pmatrix} 0.2 \\ 0.5 \\ 0.8 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0.1 \\ 0.2 \\ 0.3 \end{pmatrix})$$

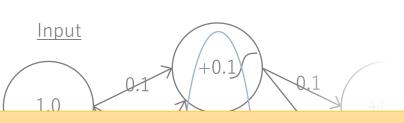
$$= sig(\begin{pmatrix} 0.3 \\ 0.7 \\ 1.1 \end{pmatrix}) = \begin{pmatrix} 0.574 \\ 0.668 \\ 0.750 \end{pmatrix}$$

sig() …シグモイド関数

ニューラルネットワークを行列計算で表

現してみる

先ほどの模型の前半部分

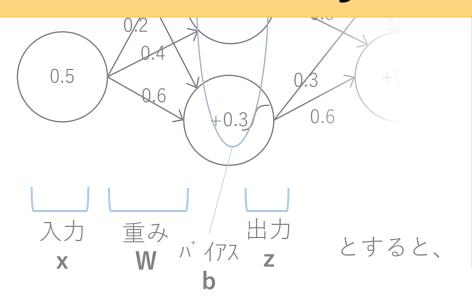


$$z = sig(W \cdot x + b)$$

 $(0.1 \ 0.2) \ (1.0) \ (0.1)$

sig() …シグモイド関数

こいつをPythonで実装してみよう!



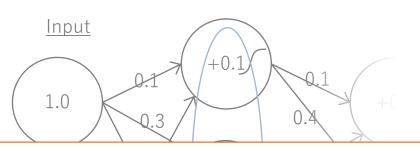
$$= sig(\begin{pmatrix} 0.2 \\ 0.5 \\ 0.8 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0.1 \\ 0.2 \\ 0.3 \end{pmatrix})$$

$$= \mathbf{sig}(\begin{pmatrix} 0.3 \\ 0.7 \\ 1.1 \end{pmatrix}) = \begin{pmatrix} 0.574 \\ 0.668 \\ 0.750 \end{pmatrix}$$

ニューラルネットワークを行列計算で表

現してみる

先ほどの模型の前半部分



$$z = sig(W \cdot x + b)$$

$$= \mathbf{sig}(\begin{pmatrix} 0.1 & 0.2 \\ 0.3 & 0.4 \\ 0.5 & 0.6 \end{pmatrix}) \cdot \begin{pmatrix} 1.0 \\ 0.5 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0.1 \\ 0.2 \\ 0.3 \end{pmatrix})$$

$$\begin{pmatrix} 0.2 \\ 0.5 \\ 0.8 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0.1 \\ 0.2 \\ 0.3 \end{pmatrix})$$

sig() …シグモイド関数

$$\begin{pmatrix} 0.3 \\ 0.7 \\ 1.1 \end{pmatrix}) = \begin{pmatrix} 0.574 \\ 0.668 \\ 0.750 \end{pmatrix}$$

import numpy as np

def sig(x):
return 1 /
$$(1 + np.exp(-x))$$

$$W = np.array([[0.1, 0.2], [0.3, 0.4], [0.5, 0.6]])$$

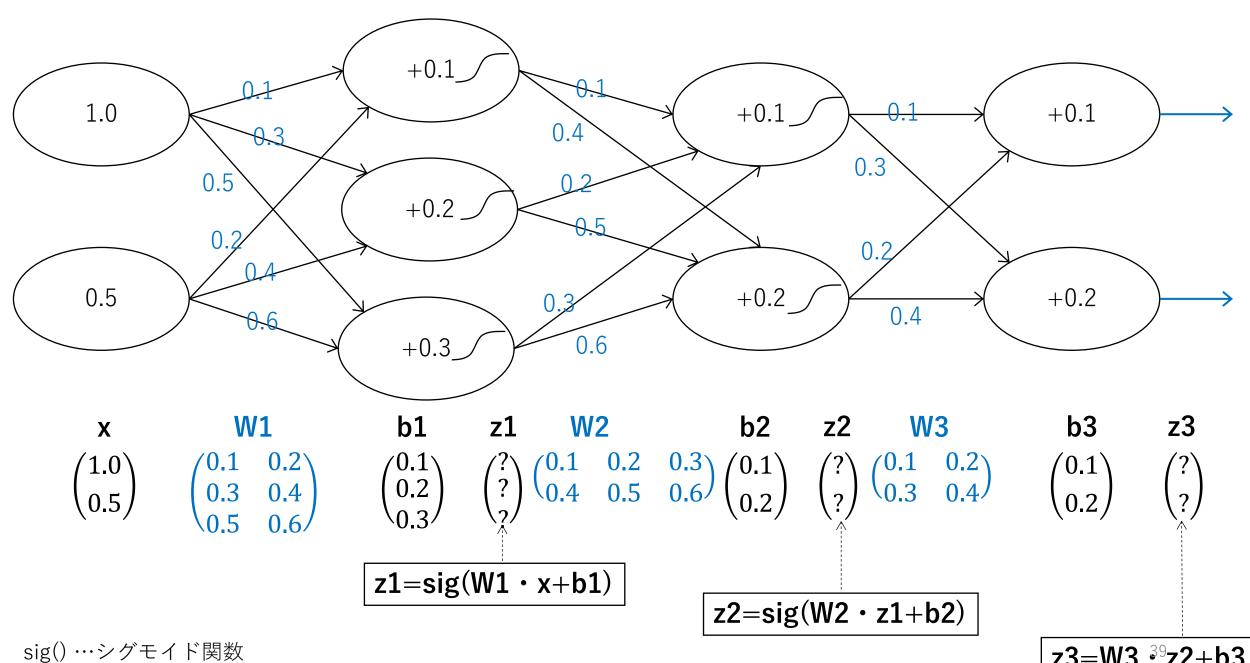
$$x = np.array([1.0, 0.5])$$

$$b = np.array([0.1, 0.2, 0.3])$$

$$z = sig(np.dot(W,x) + b)$$

print(z)

<u>先ほどのニューラルネットの例</u>



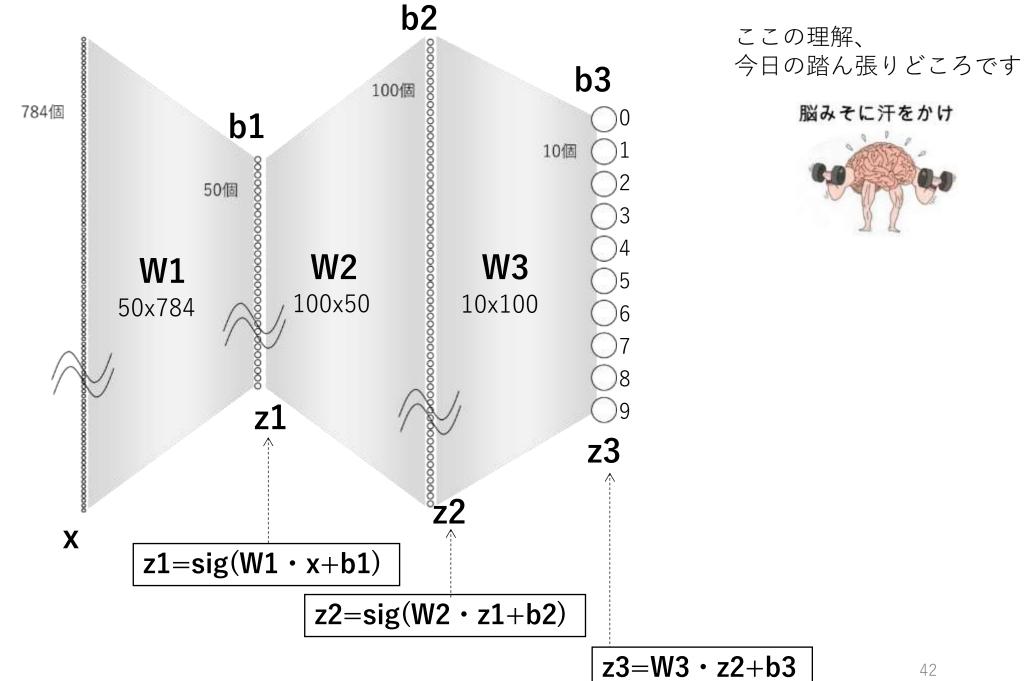
z3=W3 ³⁹z2+b3

```
import numpy as np
def sig(x):
    return 1 / (1 + np.exp(-x))
W1 = np.array([[0.1, 0.2], [0.3, 0.4], [0.5, 0.6]])
x = np.array([1.0, 0.5])
b1 = np.array([0.1, 0.2, 0.3])
z1 = sig(np.dot(W1, x) + b1)
W2 = np.array([[0.1, 0.2, 0.3], [0.4, 0.5, 0.6]])
b2 = np.array([0.1, 0.2])
z2 = sig(np.dot(W2, z1) + b2)
W3 = np.array([[0.1, 0.2], [0.3, 0.4]])
b3 = np.array([0.1, 0.2])
z3 = np.dot(W3, z2) + b3
print(z3)
```

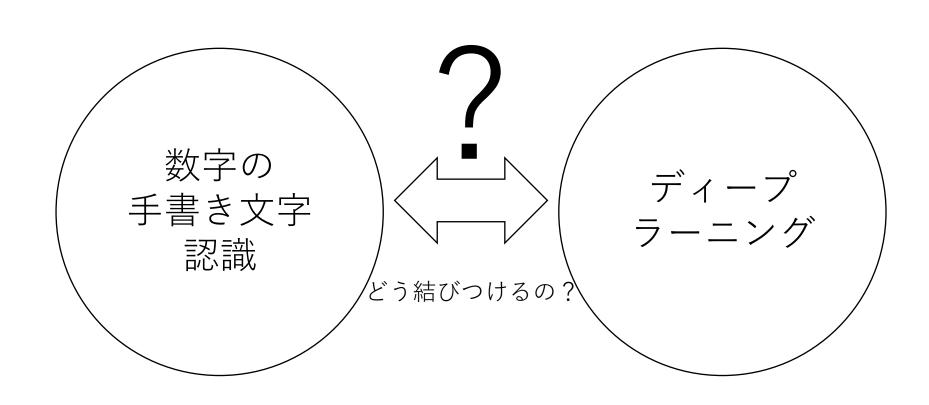
ソースコード two-layer-neuralnetwork.py

コンピューターにニューラ ルネットワークの演算をさ せる方法を手に入れた!

だったらこいつもいけるんじゃね? 100個 784個 10個 50個 60000000000



数字の手書き文字認識をさせてみる



どんなデータを使うのか

http://yann.lecun.com/exdb/mnist/

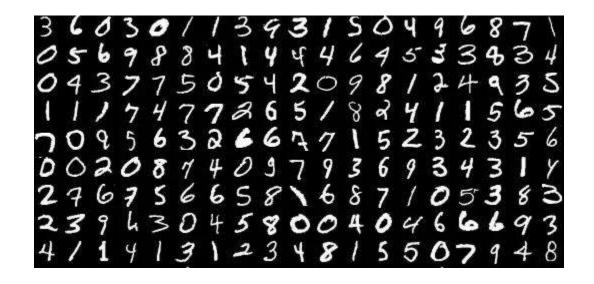
THE MNIST DATABASE

of handwritten digits

Yann LeCun, Courant Institute, NYU
Corinna Cortes, Google Labs, New York
Christopher J.C. Burges, Microsoft Research, Redmond

The MNIST database of handwritten digits, available from this page, has a training set of 60 examples, and a test set of 10,000 examples. It is a subset of a larger set available from NI: digits have been size-normalized and centered in a fixed-size image.

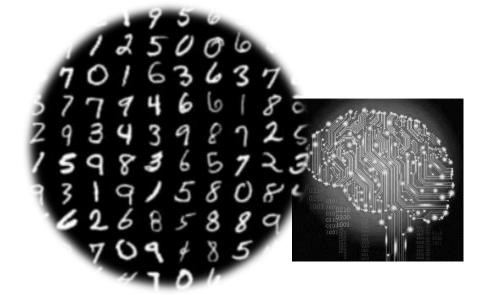
It is a good database for people who want to try learning techniques and pattern recognition

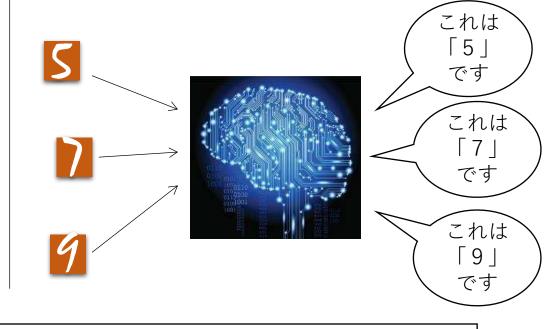


ディープラーニングによる文字認識には、 大きく二つのフェーズがある

訓練用データを使って 学習させる

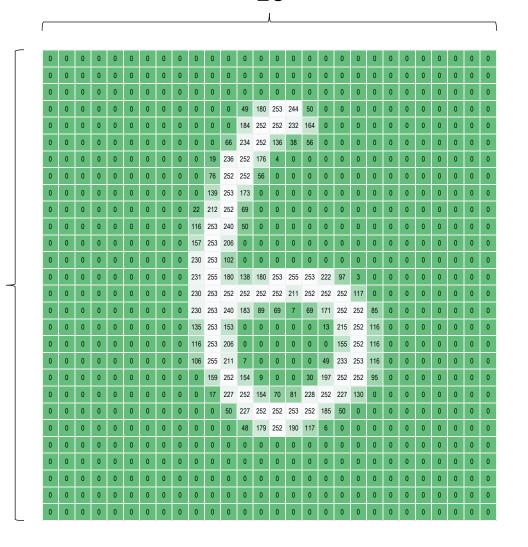
<u>汎用データ</u>を判別させる (訓練用データとは別)





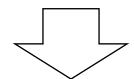
今日は6万枚の訓練用データと、1万枚の汎用データを用います

ゼロ・イチしかわからないコンピュータに手書きの文字を伝える



28

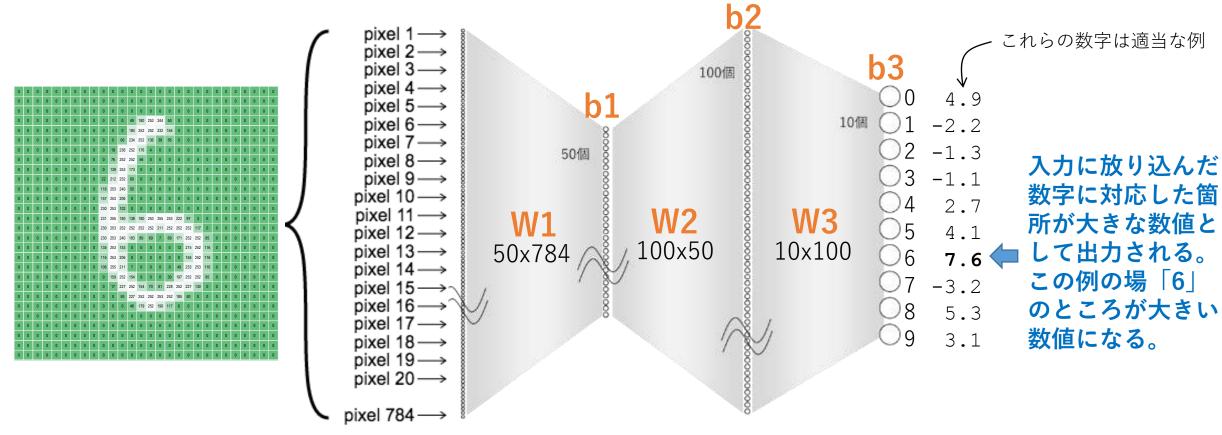
28x28=784個の格子(ピクセル)ごとに、0~255の値で明るさを表現



784個の数字の配列で、一つの手書き文字を表現できる

そして、先ほどのこれ↓にほうりこむ **b3** この784という数字は、 100個 28x28=784個の格子の 784個 **b1** 数に対応しています 10個 50個 **W2 W3** W1 10x100 100x50 50x784

結果を先に言っておきますと、ディープラーニングによる文字認識とは、こういうことができちゃいます



W1, W2, W3, b1, b2, b3 (全部で45,350個の数字) それぞれに **"絶妙な組み合わせの数字"** を置いたら、これができてしまう! これが、ディープな(多層構造の)ニューラルネットワークの威力

ディープラーニングにおける学習とは

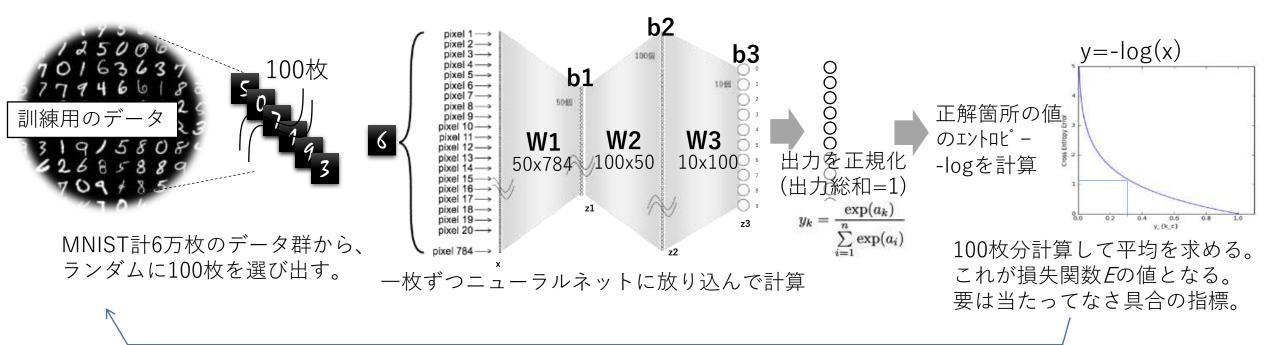
多層構造のニューラルネットワークに対して、大量の訓練用データを食わせながら、コンピューターの計算力を頼りに、ちょっとずつパラメータW1, W2, W3, b1, b2, b3 (全部で45,350個の数字)を変えながら正しい結果が出るような絶妙なパラメータの組み合わせを探すプロセス

0000000 b₂ b3 b1

学習のプロセスをもう少し詳しく見る

損失関数~当たってなさ具合を指標化

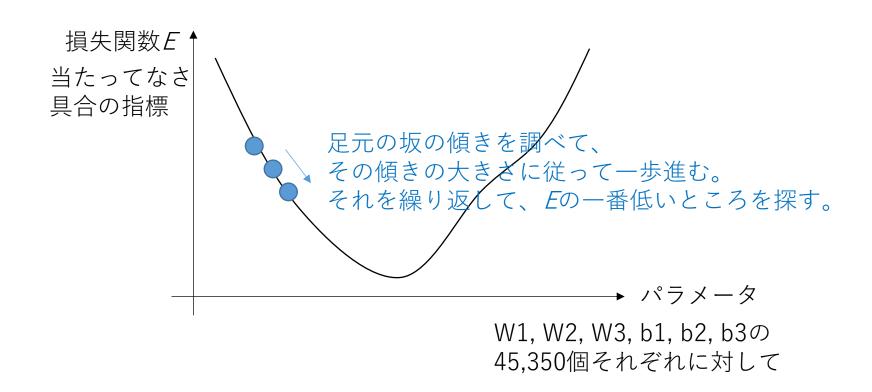
大量の訓練用データを食わせながら、コンピューターの計算力を頼りに、ちょっとずつパラメータW1, W2, W3, b1, b2, b3 (全部で45,350個の数字)を変えながら正しい結果が出るような**絶 妙なパラメータの組み合わせを探すプロセス**



パラメータを少しずつ変えて繰り返し。*E*が十分に小さくなるパラメータを探す。

学習のプロセスをもう少し詳しく見る 損失関数が小さくなるところを探す

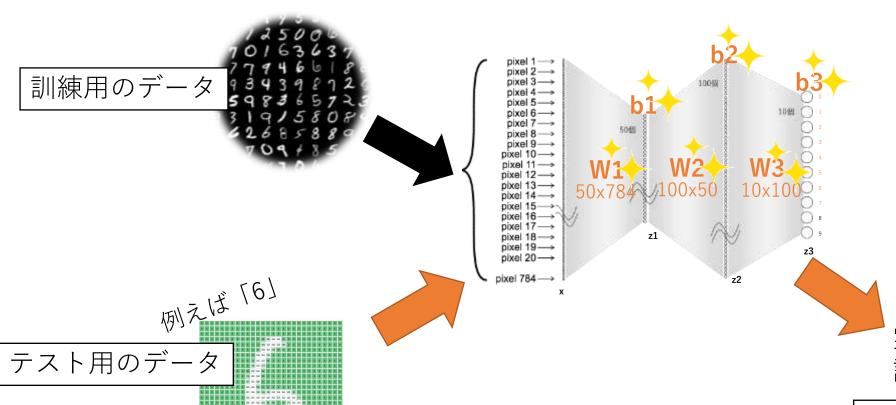
大量の訓練用データを食わせながら、コンピューターの計算力を頼りに、ちょっとずつパラメータW1, W2, W3, b1, b2, b3 (全部で45,350個の数字)を変えながら正しい結果が出るような**絶妙なパラメータの組み合わせを探すプロセス**



じゃ、学習って具体的にどうプログラムするの?

- 今日は時間の都合で学習のプログラミング実装は割愛m()m
- 学習(コンピューターの数値計算)を効率よくさせるための手法はそれ自体が奥深い研究テーマであり、誤差逆伝搬法(バックプロパゲーション)、SGD、Momentum、AdaGrad、Adam、…など、専門用語がバンバン出てくる領域。今日はそのあたりの深入りはやめときます

今日は学習の実装は割愛なので、まるで三分間 クッキングのように、そこそこ絶妙なパラメータ を手に入れたとする◎



「6」と認識できるか? 実際にPythonで動かして 試してみよう!

ソースコード tegaki-moji-ninshiki.py

ということで、一通りのおさらい

(ちょいと脱線) ディープラーニングでなぜPythonなのか?



Pythonにはディープラーニングのみならず、科学技術分野に有用なライブラリが 豊富。

その土台を支えるのが、行列に関する演算を高速に・手軽に行うためのNumPy<u>ラ</u>イブラリ。

便利なコマンド・関数をパッケージにして、 広く他の人にも使えるようにしたもの

キラーアプリとして<u>NumPy</u>の存在が大きい

"謎のAI半導体メーカー"◎

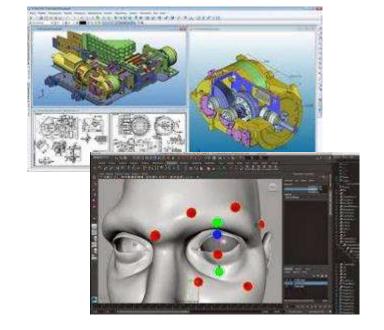
話題の企業-エヌビディア社

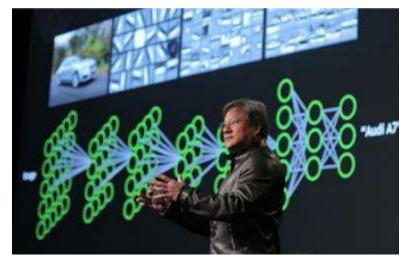


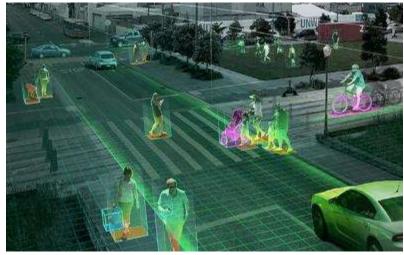
行列計算を超高速に並列処理できるチップを開発。それを組み込んだ各種ハードウェアと、それらを活用するためのソフトウェア 群を提供。

CADやCG、ゲームなどの3Dグラフィックス領域から、ディープラーニングへ適応領域を拡大。いずれも<u>膨大な行列計算</u>を必要とするアプリケーション領域。



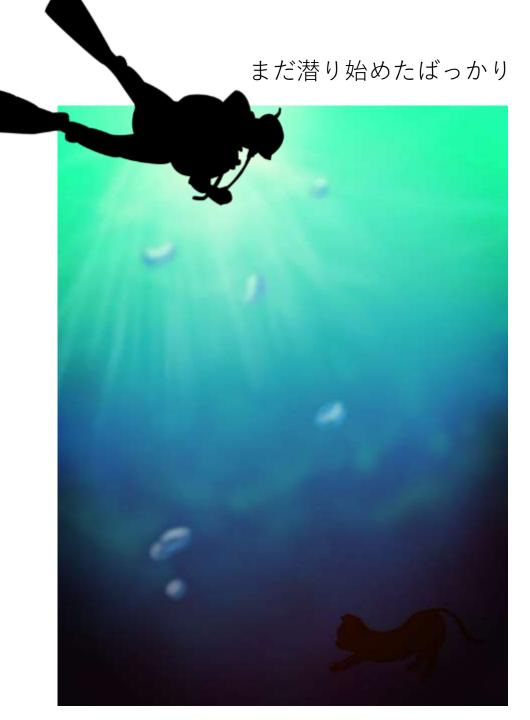






まだまだ先は深いけど

- 今日の話のさらに続きとして、畳み込み ニューラルネットワークへの発展、効率 よく学習させるための様々なテクニック など、学ぶべきテーマはまだまだありま す
- しかし、その基本となるのは今日学んだ ニューラルネットワークと、それを多層 構造化したモデルです
- これからニュースや記事でディープラーニングを見かけたときに、いままでよりも多少なりとも中身に親近感を持って理解できる一助となれば幸いです



手書き文字認識

http://rodrigob.github.io/are_we_there_yet/build/classification_datasets_results.html